

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」  
～算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫～

I 研究の内容

1 主題設定の理由

本校は、これまで「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」をテーマに、昨年度は特に算数科での言語活動の場の設定や学習活動の工夫を考え、実践してきた。本年度は、これまで積み上げてきた実践を生かしながら、さらに「授業の構造化」を意識した授業づくりを行いたいと考え、研究を推進してきた。「授業の構造化」とは、授業の全体像が把握された上で、その構成要素についても明確になっている様子のことである。教師にとっては、授業のいつ、どこで、何を、どんな方法で行うのかが整理されているので、指導しやすいという利点が挙げられる。また、児童にとっても「学ぶ楽しさ」や「考える楽しさ」を味わえることから、意欲的に学習する姿勢が育つと考えられる。指導上のポイントとしては、「課題設定の際に学習のめあてを明確に提示し、見通しをもたせるようにすること」、「学び合わせるための手立てを考えること」、「振り返りの部分で学んだことの価値に子ども自身が気づき、深められるようなまとめをすること」の3点である。以上のことに留意しながら学習活動を行いたいと考え、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」を研究主題として設定した。

2 研究の具体的内容

(1) 算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動についての学習会

講師 義務教育課 富士池 慎一 指導主事

(2) 学級集団づくり

- ・Q-Uの分析と結果を生かした取り組み(アタックシート作成・活用, 座席表への反映)

(3) 言語活動の充実

(4) 言語環境を整えるための日常的な取り組みの共有

- ・あいさつ
- ・言葉遣い(職員室等の出入り, 最後まで言う, 自分の思いや考えを言う など)
- ・読書活動(朝読書・読み聞かせ・親子読書・アニメーション・ブックトーク など)
- ・名文等掲示による共有
- ・国語辞典の活用(3年生以上)

(5) NRTの分析と結果を生かした取り組み

(6) 山梨県学力把握調査, 全国学力・学習状況調査の結果分析の報告

(7) 授業案の作成・検討及び授業実践

## ア 研究授業

- ・第3学年「はしたの大きさの表し方を考えよう」 授業者 小林千恵美教諭  
指導助言 峡東教育事務所 竹川和彦 主幹・指導主事
- ・第4学年「わり算の筆算を考えよう」 授業者 有井哲也教諭  
指導助言 峡東教育事務所 柴田幸也 指導主事

## イ 授業公開（一人一実践）

- ・第1学年「ひきざん」 授業者 依田 史教諭
- ・第2学年「計算のしかたをくふうしよう」 授業者 遠藤香織教諭
- ・第5学年「小数のわり算を考えよう」 授業者 保坂 恵教諭
- ・第6学年「割合の表し方を考えよう」 授業者 山田 浩教諭
- ・ひまわり学級 第5学年「図形の角を調べよう」 授業者 海沼潤子教諭
- ・第6学年理科「てこのはたらき」 授業者 駒田 覚教諭

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・甲州市の「確かな学力」育成プロジェクトを受けて研究主題を設定し、同じ方向性で研究を進めることができた。また、「構造化」に焦点を当てたことで、取り組む視点も絞られてよかった。
- ・意欲的に学習する児童を育てるために、「見通しをもたせる」、「振り返りをする」を中心とした授業の構造化を意識した授業研究ができた。特に学習課題やまとめ、大事なことを色チョークを使って目立たせるという取り組みを全職員で確認、実践できたことは大きな成果であった。
- ・学習会では「授業の構造化」について、算数の視点から特に「見通しをもたせる」「振り返りをする」際の手立てや工夫を教えていただくことができた。授業研究や一人一実践でも、課題を明確に提示したり、児童の興味を引き付ける課題を設定したり、児童の言葉からまとめを行い、何を学習したかがはっきり分かるように提示したりするなどの工夫ができていた。
- ・Q-Uの結果については、K-13法を行うことによって、自分のクラスを客観的に見ることができ、今後の対応策を立てやすくなった。また、座席表にQ-Uの結果を反映させたり、児童の様子などを載せたりすることで授業づくりに生かすことができた。

### 2 課題

- ・「見通しをもたせる」「学び合い」「振り返りをする」という場面の中で、本校独自の視点を持って研究を深めていくという部分が足りなかった。
- ・Q-Uの結果について、ブロックでの結果分析のみとなってしまう、全体での交流の場をもてなかったので来年度は、年間計画に組み入れていけるとよい。

## III 成果物

- ・研究授業，授業実践の授業案 (研究主任 遠藤香織)